

2050年の鳥取の建築家へ

2011年、鳥取県の二つの歴史的建築にとって大きな分岐点となった年であった。鳥取市の「五臓圓(ごそうえん)ビル」の保存再生工事が終わり、「米子市公会堂」の存続改修が決まった。この出来事を2050年の鳥取の建築家に伝えたい。そして検証してほしい。ここ二つの建築は、まちに再び賑わいをもたらしたか、人々に活気を与えたか、そして文化の継承足り得たか。

・五臓圓ビル再生に向けて -まちづくりとの連携-

昭和6年鳥取市に建築された五臓圓ビルは、昭和18年の鳥取大震災、昭和27年の鳥取大火でも消失を間逃れ、地域のシンボリック存在として市民に親しまれてきた。現存するものとしては鳥取市最古の鉄筋コンクリート造建築であり、2010年には文化庁の登録有形文化財に指定され歴史的価値も認定された。

「灯台もと暗し」で気づく人もいなかった。「五臓圓ビルがこの街の宝物になるかもしれない」とこの建築のある智頭街道商店街 常村理事長は当時を振り返る。2009年3月に五臓圓ビルの保存再生と利活用を柱に据えて、智頭街道商店街エリア活性化事業計画案がつくられ、同地域の活性化に向けての目標、歴史と文化の薫るまちに加えて、空き店舗対策等も含めた構想がスタートした。その少し前に「五臓圓ビルを考える会」を地元建築家で構成する「とっとり建築集団」を軸に立ち上げ14名が集まり、ありのままの五臓圓ビルを体感し、今後の活動に対して思いを伝え合った。築80年のRC建物をどうやって残していくか全国でも事例が少ないとか、このビルは市民の宝物「二つの災害の記憶を留めている」であり、改修費は市民を巻き込んでやれないか等々・・・

一どれほどの耐力が残っているか耐震診断をやろうよー

ビルの耐震診断(一次)に基づいて補強設計を行うと、弱軸方向の補強を行う事で現状より4割ほど耐震指標が上がる事が分かり、改修に向けての視界が少しずつ開けてきた。そして現地一般見学会に備えて多くの諸団体の人達が参加してビル全体の大掃除作戦が、2009年5月に行なわれた。又、保存・再生に向けての募金活動も始まり、1800人をこえる多くの市民・企業・団体から500万円を超える支援を頂いた。その後改修に向けて、多くのイベントがこのビルを活用して行われた。現代アート展やコンサート、ビルの外壁に使われていたスクラッチタイルの破片を使って新しい壁画とか、地元小学校の子供達による絵画展等、保存と再生へ向けての様々な活動が展開された……。中でも4回に渡って発行された五臓圓ビルカワラ版は、工事の進捗状況や智頭街道周辺のお店の物語を紹介し大きな反響を呼んだ。



「鳥取大火」で焼け残った五臓圓ビル



五臓圓ビルカワラ版



改修後五臓圓ビル(復元された5本の蛇腹)



2階階段室と透し彫り金物

・米子市公会堂の存廃問題

米子市公会堂は昭和33年、建築家村野藤吾氏の設計により誕生する。特筆すべき事は、市民の通称「1円募金運動」が起こり、結果、建設費の1/3近くを市民、地元企業の寄付でまかなわれたことであろう。市民の熱い思いを受け村野氏も設計料を返上(寄付)されたという記録も残っている。その後50年、途中大規模増改修(1980年村野事務所による)を経てこの地方の文化の殿堂として市民の文化活動を担ってきた。また山陰を代表する建築として1998年には「公共建築100選」にも選ばれた。

しかし名建築といえども老朽化や狭隘化による設備面や機能面の不足は避けられず、類似施設の新設により利用が分散、減少し徐々に廃止すべきとの声が聞こえ始める。2009年に耐震診断が実施されたが、Is値0.15という極めて低い数値と、同時に概算改修費が多額にのぼると報告された。この診断値については異議を唱える専門家も少なくなかった(震度5強の鳥取県西部地震で全くの無傷であった)が、施設もいったん閉鎖され、本格的に存続か廃止か市民を二分する議論がはじまる。廃止による地域の芸術文化の衰退を危惧する文化団体や地元建築家を中心とした市民団体は、類似施設はあっても収容人員や音響面で代替できるものではないと改修し存続することを主張。わずか1ヶ月で4万を超える署名を集め議会に陳情した。対する行政側は多額の財政負担に慎重な姿勢を崩さない。一時は廃止やむなしという空気が大きく支配するなか少しずつ流れが変わり始めた。市民アンケートが実施され、その結果を受け市長は改修し存続する判断をした。存廃の境を分けたものは、市民団体の地道な活動が大きく、学会やJIAもその一翼を担ったといえる。しかし多くの市民の強い愛着がなければこの結果はなかった。もしこれが庁舎建築であればこのような結果にならなかったのではと思う。米子市公会堂は市民が自立的に求め建設され、50年にわたりハレの場を提供した。そして、多くの人のここでの幸せな記憶がこの結果をもたらしたのではないか。



日本建築学会とJIAでシンポジウムを開催した



photo:林 正



鳥取地域会 足立 収平 川中 節男 杵村優一郎 木下 正昭 来間 直樹 塚田 隆 萬井 博行